

2023 年 3 月 17 日

国立西洋美術館

新収蔵作品のお知らせ： アウグスト・ストリンドベリ 《インフェルノ（地獄）》とホアキン・ソローリャ 《水飲み壺》

国立西洋美術館（東京都台東区上野公園 7-7、館長・田中正之）は 2022 年度にアウグスト・ストリンドベリ（1849-1912 年）の絵画《インフェルノ（地獄）》*とホアキン・ソローリャ（1863-1923 年）の絵画《水飲み壺》**を購入しました。

ストリンドベリは、19 世紀スウェーデンを代表する作家で、特に『令嬢ジュリー』をはじめとする戯曲で知られていますが、彼はまた画家でもありました。パレットナイフを用いた厚塗りの大胆なタッチ、偶然の効果を取り入れた即興性や抽象性を特徴とする彼の実験的な絵画は、後に 20 世紀の様々な前衛芸術運動を先駆するものとみなされ、今日までめざましい再評価が続いています。ダンテの『神曲』「地獄篇（インフェルノ）」に因み、作家自身が「私のインフェルノ絵画」と呼んだ《インフェルノ（地獄）》（1901 年）は、ストリンドベリの最重要作品のひとつです。

一方ソローリャは、19 世紀末から 20 世紀初頭にかけて、地中海の光彩に輝くスペインの風土と人々を描いて国際的な名声を得た、同国の誇る国民的画家です。戸外制作を礎として、陽光の織り成すセンセーションを生き活きととらえたルミニスモと称される独自の絵画を作り出し、スペイン美術の近代化に貢献しました。画家の代表作の 1 点に数えられ、当館で最初のソローリャ作品となる《水飲み壺》（1904 年）を、画家の没後 100 年という記念の年を迎える本年、2023 年に初公開いたします。

当館初となるスウェーデン人作家のストリンドベリ、そしてスペイン人画家ソローリャの作品が加わることで、これまでフランス美術が中心であった当館の 19 世紀後半から 20 世紀初頭のコレクションの地理的な多様性が広がります。西洋美術のより多彩な魅力をご覧いただければ幸いです。

ストリンドベリ《インフェルノ（地獄）》は 3 月 18 日より常設展示の中で、ソローリャ《水飲み壺》は 7 月 4 日より企画展『スペインのイメージ：版画を通じて写し伝わるすがた』（7 月 4 日（火）～9 月 3 日（日））で展示いたします。

*作品詳細については所蔵作品データベース参照

<https://collection.nmwa.go.jp/P.2022-0001.html>

**作品詳細については所蔵作品データベース参照

<https://collection.nmwa.go.jp/P.2022-0002.html>

■アウグスト・ストリンドベリ 《インフェルノ（地獄）》



アウグスト・ストリンドベリ

《インフェルノ（地獄）》

1901 年

油彩・カンヴァス

100 × 70cm

右下に制作年と署名：“Aug S-g 1903”

P.2022-0001

作品について

画面の周囲は緑の茂みに覆われ、まるで洞窟の中央開口部から外の世界を望むような斬新な構図が取られている。向こう側には混沌とした風雨と激しい波のようなものが描かれ、場面に荒々しい印象を与える。本作は、3 番目の妻で若き女優ハリエットとの幸せ

な新婚生活が、突如深刻な危機に陥った時期に制作されたとされ、牢獄のような暗い洞窟に、ストリンドベリの絶望感が投影されていると解釈できる。作家自身が一種の精神的自画像として特別視し、長く自宅の壁に掛けられた後、スウェーデン国立美術館とストックホルム近代美術館に長年寄託されていた作品である。

アウグスト・ストリンドベリ（ストックホルム 1849—1912 年）

スウェーデンを代表する劇作家、小説家。その生涯において、60 編以上にのぼる戯曲のほかに、小説や詩、芸術批評、歴史書、科学や錬金術に関する研究書など実に膨大で広範囲の文学作品を世に残したが、彼はまた独創的な絵画や写真作品においても知られる。ストリンドベリは専門的な美術教育を受けていないが、生涯のいくつかの局面において絵画制作に没頭した（1892-94、1901-02、1903、1905 年）。それは結婚生活の破綻や政治的論争など、しばしば執筆活動が行き詰まるほどの危機的時期と重なっており、それゆえ彼の絵画は自伝的かつ表現主義的な表現を見せる。

■ホアキン・ソローリャ 《水飲み壺》



ホアキン・ソローリャ

《水飲み壺》

1904 年

油彩、カンヴァス

151 x 98 cm

署名年記：Signed “J. Sorolla y Bastida / 1904”

P.2022-0002

作品について

本作は、画家の円熟期である 1904 年の晩夏、故郷バレンシアの砂浜で描かれた。浜辺の掘立小屋で、少女がまだおなかの出た小さな幼児に壺から水を飲ませており、背後では半分開いたドアから、一条のまばゆい光が差している。ソローリャの幼き者に対する愛情に満ちた眼差しと、光を捉える色彩の魔術の際立った作品で、1964 年、画家の生誕 100 年を記念してスペインで発行された記念切手の図柄にも採用された。

ホアキン・ソローリャ（バレンシア 1863 年—セルセディーリャ 1923 年）

バレンシアに生まれ、地中海の光彩に輝く祖国の風土と人々を描いて当時内外に絶大なる名声を得た、スペインの誇る国民的画家。画業の初期には社会的リアリズム絵画によりマドリードの全国美術展をはじめ国際的な公的展覧会で名声を獲得。その後多数の肖像画の注文に応える傍ら、1900 年頃から個性を確立、陽光の織り成すセンセーションを素早い筆致でとらえた、戸外制作による海辺の風俗や風景に本領を発揮した。マドリードにあった彼のアトリエ兼住居は現在、ソローリャ美術館として公開されている。

■報道関係お問い合わせ先

国立西洋美術館 広報事務局

株式会社ユース・プランニング センター内

TEL：03-6821-8229 E-mail：nmwa(at)ypcpr.com

（受付時間：平日 10：00～18：00

※土日祝日・年末年始等の対応はしていません。）